鵠沼海岸ビーチクリーンアップ

9月22日(日)、秋分の日の前日というのに太陽が昇るにしたがって気温が上昇、猛烈な暑さとなる。今夏の異常気象はまだ続いており、一体全体これが何時まで続くのだろうか。この酷暑の下、鵠沼ビーチクリニングが挙行された。

早朝は、秋冷ともいえる寒さを感じる涼しさだったし、予報が曇りだったので今日は絶好のクリーニング日和と思いきや、太陽が顔を出すと気温がドンドン上昇し、逆に熱中症が頭を過ぎる。天気予報が外れるのは茶飯事だから、保冷剤と緑茶数個を持参した私の予報の方が的中した。開始時間となっても全体の出足が遅く参加者が寂しいため、協会から開始時間を少し遅らせる旨の連絡があった。3連休の中日だし、この暑さでは止むを得ないところか。確かに何時もと比べ出足が遅い。それでも20分位待ったら総勢150人位となり、活動開始と相成った。サッポロビールが会社独自のCSR施行でJEANを離脱したこともあって、総人数はこれ位が妥当なところであろう。

海洋会の参加人数は、19名と最近では珍しく盛況だった。海洋湘南会の会員、タグ会社の女性社員の親子と元社員（女性)、海洋大学の一年生の女子大生の親子等、これまで海洋会参加者といえば男性高齢者が定番だったが、今回は一躍アカデミックなメンバーとなり、全員が羽織った海洋会のユニフォーム姿が太陽に照らされて美しく一段と目立っていた。

協会のスタッフから「さすが海を愛する海洋会」と嘆賞の言葉を頂戴した。大学生が参加してくれる最近では老若間の考え方のコラボの観点から、作業終了後学生を対象に我々要員と食事を共に取るのが常だが、海洋会に対する協会員の今回の賞賛の言葉に感激した幹事は今回に限り参加者全員に希望を募り、クリーンアップ終了後、隣接する公園で老若男女十数名で歓談の場を持った。

東日本大震災以降、想定外の自然災害があちこちで発生し、その度に若者が被災地に向かい大活躍をしている。近年のボランティアは「フェアトレード」とか「エシカル消費」とか時代と共に変化しつつあるが、ボランティアはボランティア、あくまでボランティア活動を貫くことには変わりはない。学生との交流を通じ、若者の思考がどの程度かを彼らの目線に合わせて見聞することは懇談の興味ある目的の一つであり、古代日本の頽脱した各分野の歴史・文化を学生にどこまで伝えコラボレートしていくかを追跡するのも楽しみの一つである。

7年後には東京オリンピックが開催されることとなった。原発に関し、総理の政策的プレゼンもあったが、オリンピックの有無に関係なく我々の住む環境は綺麗且つ快適であることが必須である。が、オリンピックは、スポーツの究極の祭典である以上、アスリート達にはボランティア活動を通して、快適な環境・条件を提供し、その良き環境の下で栄冠を勝ち取ってくれることを願って止まない。

今や世界は急速に一つになりつつある。ボランティアの世界でも、日本は高いレベルになりつつ

ビーチクリーンアップ参加者

ある。他国に負けることなく現状を維持し続け、更にはグレードアップしなければならない。そのため、当会でもボタンティア士気に燃える勇者を募る。

今回の海洋会員参加者及び友情参加者は、以下の通りである（敬称略）。

橋本　　進　戸苅　　清　北沢　昌永
安田　岩男　早津　義彦　内田　直行
真那子金三　高橋　正夫　山本　訓三
稲葉　　燁　竹橋　由進　大村　達也
上村　治稔　神谷　泰子（※WM）
神谷　　優（お嬢さん）
近藤まゆみ（神谷さんの友人）
川口美欧子（大学生）　小田島　厚

鵠沼海岸クリーンアップ

川口多美子（学生の母）
※WM：ウイングマリタイム社

（東船大N 15・小田島　厚）